

生徒指導だより「こころ」

平成28年11月29日(火)
NO. 14 文責 堀 晴昭

山鹿地区学校等警察連絡協議会(学警連)の報告

年に4回ほど学警連の会議に出ています。先日11月17日が3回目だったのですが、警察の方の説明の中で、お知らせしたいことがいくつかありましたので報告します。

- スマホの「ライン」「ツイッター」のトラブルが山鹿署管内でも増えているそうです。
- 3年前は中学生のスマホ・携帯電話の所持率が5割ぐらいだったのですが、現在は7~8割まで増えてきているそうです。しかも所持している生徒の4割が1日2時間以上使っており、平均は107分だそうです。
- フィルタリングの設定率55%で、約半分はいつでも有害サイト(闇サイト)が使える状態にあるそうです。
- 山鹿署管内でも「SNS」を通じて知り合ったことで性被害を受けたり、家出をしたりということが起こっているそうです。
- 今年1月~9月の山鹿署管内での小・中・高生の事故は、全部で16名(徒歩2名、自転車7名、バイク7名)で、夕暮れ時や飛び出しが多いそうです。中には青信号で横断中に車にはねられたケースもあったそうです。青信号でも絶対安全というわけではありません。周りを見ながら気をつけて横断してほしいです。



肯定的な言葉

医学博士の佐藤富雄氏は、次のようなことを言っておられます。

肯定的な言葉を第一声として発すると、脳は〈大丈夫なのだ〉と理解し、『これでよい理由』や『うまくいく方法』を次々と見つけ出していく。逆に**否定的な言葉**を発すると、脳は残酷にも、その意向に沿って、ただちに『できない理由』を山ほど探す。



また、脳科学者の中野信子さんは、夢や目標を紙に書いて、頻繁にその紙を眺めることを推奨されています。その紙を眺めるとき、人の脳は、夢や目標が実現したときのことを自然にイメージするそうです。そして、「やる気」にかかわる脳内の神経伝達物質である「ドーパミン」が分泌され、夢や目標達成のための行動

が促されるということです。いずれの話にせよ、プラス思考の生活が成功の秘訣のようですね。しかし、現実には学校生活の中で否定的な言葉を耳にすることが多いです。

家庭でできるいじめチェック

県が出しているチェックリストです。お子様の様子をチェックしていただき、当てはまる項目がたくさんあったり、該当項目が度重なるようでしたら、学校にご相談ください。(県からのプリントそのまま掲載しています。)

項 目	チェック欄
1. 表情が暗くなり、言葉数が少なくなった。	
2. 学校のことをあまり話さなくなった。	
3. 朝から体の不調を訴え、登校をしぶるようになった。	
4. 感情の起伏が激しくなり、親や兄弟姉妹に反抗したり、八つ当たりしたりするようになった。	
5. すり傷やあざ等を隠すようになった。(風呂に入ることや裸になることを嫌がる、自分でけがをしたと言う。)	
6. 家族と過ごすことを避け、部屋に一人でいることが多くなった。	
7. 友だちからの電話に、暗い表情が見られるようになった。	
8. 学用品や私物がなくなったり、壊れていたりするが増えた。	
9. 教科書やノートに落書きをされたり、破られたりするようになった。	
10. 衣類が破れたり、汚れたりしているが増えた。	
11. 以前に比べると食欲がなくなった。	
12. 最近、寝付きが悪かったり、夜中に何度も目を覚ましたりすることがある。	
13. 以前に比べると言葉遣いが乱暴になった。	
14. 家から品物やお金を持ち出したり、金品を要求したりするようになった。	
15. 不審な電話や嫌がらせの手紙が来るようになった。	
16. 友だちからの電話で、急に外出するが増えた。	
17. 携帯電話やスマートフォンのメールやライン等を頻繁に気にするようになった。	
18. 何に対しても投げやりで集中力が続かないようになった。	
19. 「引越したい」「転校したい」と言うようになった。	
20. 友だちへの口調が命令口調になっている。	
21. 家で買い与えた物ではない物を持っている。	
22. 家で与えた以上のお金を持っている。	
○上記以外で、お子さまの様子に気になることがありましたらお書きください。	

※ この表は「いじめ対応の手引き」(平成19年3月発行)の「子どものサイン発見チェックリスト」に修正を加えて平成26年11月に作成したものです。

※ 平成27年11月、平成28年11月(ライン等について追加・修正)